

A magazine about Shimane Prefecture, Japan

梦之港

Vol. 26

生活在世界遗产 周围的人们

学习历史！英语导游！

石见银山的居民为故乡感到自豪

来武士家宅品尝美食如何？

历史的记忆—石见银山的煤油灯

「世界遺産の町に生きる人たち」

歴史を学ぶ！英語ガイドツアー！

石見银山の住民は故郷を誇りに思う！

武家屋敷で食事してみませんか？

歴史の記憶—石見银山のカンテラ



歴史を学ぶ! 英語ガイドツアー!

学习历史! 英语导游!

Damien Craig

隆冬时节,细雪飘落的早上我们抵达了环绕在森林和群山怀抱中的大森町。从停车场开始映入眼帘的是一个有生气并且风景如画的小镇。我注意到,沥青路面以及电线杆和传统的房屋、石桥相映衬,形成了新旧事物的对比。

“石见银山遗址及其文化景观”是包含大森町和约650个坑道、街道、遗址以及港口等被称为世界遗产。当时的欧洲地图记载,从1526年到1934年为止是一个大型开采矿山。

“你好,我的名字叫畑 美惠”,来了一位能讲一口流利英语的女士。畑美惠是石见银山的免费英语导游,她是一个志愿者团体的成员之一,这次,作为我们的导游。讲解结束为止,到仙之山坑道需步行2.3公里。

Q: 畑女士,你为什么想加入这个志愿者团体呢?

A: 我出生于兵库县,在十年前搬到了大田市。我家距离这里仅有20分钟的车程。原本我是打算在初中做一名英语老师,现在我在英语补习班工作。有一天,参加英语导游的培训,我觉得很有意思,所以就加入了这个团体。这个团体被称为“石见银山志愿者英语导游会”,现在由八名成员组成。今年已经是第五年了。每年有大概3、4次的导游活动,我希望可以增加。

Q: 请说明一下关于导游的工作。

A: 在约两个半小时的时间里,讲解石见银山的历史、作业方法等,一起步行坑道,看完坑道之后再返回。需要提前预约,



Japanese

歴史を学ぶ! 英語ガイドツアー!

わずかな雪が降る中、真冬の朝に森と山に囲まれた歴史の一部である大森町に到着しました。駐車場から生きている絵のような町並みが目に入りました。アスファルトの道路や電柱と伝統的な家や石の橋という古い物と新しい物のコントラストに気がきました。

「石見银山跡とその文化的景観」は大森町と約650のまぶ間歩、街道、城跡、港なども含まれ、世界遺産として登録されています。当時のヨーロッパの地図にも載っている、1526年から1934年まで作業された大規模な鉱山です。

「Hello, my name is Mie Hata」と流暢な英語で話しかける女性がやってきました。はた畑みえ美恵さんは石見银山を英語で無料のツアーするボランティア団体のメンバーの一人で、私たちのガイドをしてくださいました。紹介が終わると、仙ノ山の間歩へ2.3キロの散歩を始めました。

Q: 畑さんはどうしてそのボランティア団体に入ろうと思いましたか?

A: 私は兵庫県出身で、10年前に大田市に引っ越ししてきました。家はここから、車で20分かかるところにあります。元々中学校で英語教師をやっていましたが、

デミアン・クレイグ

今は英語の塾をしています。ある日、英語ガイドの研修に参加して、面白いと思ったので、団体に入ったわけです。「石見银山ボランティア英語ガイドの会」と言って、今は8人のメンバーがいます。私は始めてから、5年目です。毎年、3~4件ぐらいガイドの要望がありますが、その回数を増やしたいと思っています。

Q: ツアーの様子を少し説明してください。

A: 大体2時間半の間で、石見银山の歴史、作業方法等を説明しながら、一緒に間歩まで歩いて、間歩を見て戻ってきます。事前予約は必要なのですが、1年に1回ぐらい、突然ツアーしたいというお客さんが来ます。

Q: 将来の夢を教えてください。

A: 外国の観光客に石見银山を楽しんでほしいです。そして、色々な国の人に会いたいです。最終的にボランティアの人数を増やしたいと思っています。

間歩に入るとなんと外より暖かい5℃! 人の手で掘った間歩を自分の目で見

毎年大概有一次,客人临时需要导游的。

Q: 请告诉我们你将来的梦想。

A: 希望外国游客可以在石见银山旅行愉快。并且希望可以遇到来自不同国家的人。最后希望志愿者的人数可以增加。

进入坑道感觉似乎比外面暖和5℃! 亲眼看到用手挖掘的坑道我再次感到人类真正的力量。回来的路上边走边和畑女士聊些平常的事情,很快回到了停车场。

曾经这里有人口约1万人,目前只有400人居住在大森町。但是2007年申报了世界遗产以后,为了满足每年80万观光游客前来的需求,建成了各种餐厅、咖啡厅、纪念品商店以及住宿设施。因为有可以耐心讲解的导游,我认为可以加深了解城镇以及矿山的情况。想和田女士畑一起漫步历史的城镇大森町吗?



英語ガイドツアー! 歴史を学ぶ!



Japanese

と人間の本当の力を改めて感じました。帰り道に畑さんと普通の会話をしながら、歩いていたら、あっという間に駐車場に戻りました。

昔は約1万人もいた人口ですが、現在、大森町にたった400人が住んでいます。しかし、2007年に世界遺産に登録されてから、毎年訪問する80万人の観光客のニーズに合わせるため、様々なレストラン、カフェ、お土産屋さんや宿泊施設などができました。やさしく説明してくれるガイドがいるので、この街や鉱山のことにより深く理解できたと思います。歴史の町、大森町を畑さんと一緒に歩きませんか?



石見銀山の居民为故乡感到自豪

塔奇亚娜·卡拉皮维娜

据推断在17世纪初日本的产银量约占世界产银总量的1/3,而日本大多数的银出产于大田市的大森町。今天我们访问了这个原本有数万人的大森,它在休山后人口锐减,现在只有400人依然生活在这里。

这500人中有一位就是生产假肢装备的“中村假肢公司”的中村俊郎社长。中村假肢公司的厂房从外面看不出是一间工厂,它是配合街道风格设计的。进入工厂内部,你可以感受到一种充满活力的工作氛围。在不同的房间中正在制作上肢装具、足装具、围腰胸衣,以及医学美容用的人工乳房、耳朵等等。进入中村社长的办公室,你会看到墙上挂满了各种奖

状和奖杯,多到基本看不到墙面。

中村社长曾经在京都和美国加州研修、留学,学习假肢装具的制作,取得了假肢装具师资格的中村社长回到了生他养他的大田市大森町,并在这个小城市里开创了自己的公司。我向中村社长询问了他这么做的理由。

中村社长表示,在他小的时候,父亲就告诉过他石见银山作为保留有历史遗迹城市的荣光。从那时开始,他就下决心自己也要为这个历史丰富的地区贡献一份力量。因此,他



石見銀山の住民は故郷を誇りに思う!

Japanese

石見銀山の住民は故郷を誇りに思う!

17世紀の始めに日本は世界の銀の1/3を産出したとも推定されるが、そのかなりの部分を占めていた石見銀を産出した大田市の大森町を訪問しました。当時数万人が住んでいた大森の地は休山の結果人口が減り、現在400人に留まります。

その中の一人は義肢装具を製作する「中村ブレイス」の中村俊郎(なかむらとしよう)社長です。外からは工場に見えない、街並みに合わせた中村ブレイスの建物の中で活気のある仕事が進められています。それぞれの部屋で上肢装具、足装具、コルセット、メディカルアートである人工乳房、耳等が製作されています。そして、中村社長のオフィスに入ってみると、壁が見えない程、様々な賞状や盾が並んでいます。

京都と米国カリフォルニア州での義肢装具製作の研修・留学を行い、義肢装具士の資格を取得された中村社長は生まれ育った大田市大森町に帰られ、その小さな町で会社を起すことにされた理由について聞いてみました。

史跡の町「石見银山」の誇りは子供の時にお父さんから伝わりました。その時から、自分も豊かな歴史のある地域にどうにかして貢献したいという気持ちがわ

タチアナ・クラピヴィナ

いてきたそうです。そのため、日本内と国外で様々な知識と経験を重ね、京都府、大阪府ではなく、どんなに田舎であっても、自分の故郷である大森町で会社を一人で起業されたそうです。1974年のことでした。

県外から専門家を誘い、現地の人々にもパートタイムの仕事をしてもらい、職員の力で義肢装具、医療器具の開発をされました。その中、会社のオリジナル製品になったシリコンゴム製のインソールを開発し、日本と外国で特許を取り、37カ国で販売されています。日本国内の医療機関・義肢装具製作会社、さらに海外の多くの国々とも交流するまでに成長することが出来たそうです。このように「石見银山」再生の一助になればと、社員と一緒に努力を続けてこられました。

中村社長は、写真を見せながら、「40年前の大森町を見て下さい。老朽化した家ばかりです。ここで生まれた人間の気持ちを還元したいと思いながら、自力で家を修復し始めました。現在40軒目を修復しているところです。そして、中村ブレイスのお客さんと石見银山の観光客が使用できるゲストハウスも建設しました。故郷の町は益々元気になり、自分が少しでも町のために貢献出来たことをどんなに幸せに思っているかということは、表現しきれません」。

梦之港



在日本国内外学习了很多知识,积累了很多经验。不论是京都、大阪这样的大城市还是落后的小乡村,都比不上自己的故乡,中村社长1974年在大森町一个人创建了公司。

中村社长从县外请来专家,也请本地人来做小时工,动员职员们开发了假肢装具和医疗器具。在这其中,硅胶鞋垫作为公司的原创产品被开发,在日本及国外取得了专利,并在37个国家进行销售,进一步扩大了与海外各国之间的交流。中村社长认为这样应该对“石见银山”的再生会有帮助,因此与社员们一直努力至今。



中村社长一边让我看照片,一边说:“请看一下40年前大森町的样子。基本上都是老化的房子。我想使这里出生的人恢复生气所以开始动手修复这些危旧老房。现在刚好修复了40间。另外我们也建造了可以为中村假肢公司的客人和石见银山的游客使用的招待所。看着自己的故乡一点点恢复生机,对于自己能为故乡的发展做出一点点贡献的幸福心情无以言表。”

Q: 今后的梦想是什么?

A: “公司已经为6000人做了个人假肢装具。今后的梦想是希望多增加根据个人需求制作的假肢,让更多人感受到生活的幸福感。”

Q: 关于中村收藏品请您简单谈谈

A: “我正在收集和石见银山相关的资料、画卷、老地图、石州银币等。今后如果这些能为研究石见银山的学者以及新一代年轻人的参考的话,我会感到很高兴。为迎接石见银山登录联合国教科文组织50周年而将资料汇集成册出版了这本《石见银山与其文化景观》。”

虽然与中村先生交谈的时间不长,但是我充分地感受到了中村社长对于石见银山地区和大森町的那份自豪之情。在接受完采访之后,极重待客之道的中村社长招待我们一起吃午饭。多谢您,中村社长! 感谢您有趣的回答和美味的午餐!



故郷を
見
る
住
民
は
思
う
!

Japanese

Q: 今後の夢はなんですか。

A: 「会社は既に6千人のために個人義肢装具を作りました。今後の夢は個人に合わせた義肢装具の製作を増やし、もっとたくさんの方々に社会生活の幸せを感じてもらおうことです。」

Q: 中村コレクションについて一言をお願いします。

A: 「石見银山に関係ある資料、絵巻、古地図、石州(せきしゅう)銀貨等を収集しています。今後石見银山を研究する学者と次代の若者へ参考になれば嬉しいです。「石見银山とその文化的景観」はユネスコの世界遺産として登録されてから50周年を迎え、収集した資料を一冊の本にまとめました。」

短い時間の話であっても、石見银山地域と大森町の故郷を誇りに思う中村さんの気持ちがよく伝わりました。インタビュー後、お客さんを大切にされる中村社長に昼ご飯をごちそうになった。中村さん、面白いインタビューと美味しい昼ご飯、ありがとうございました!





みま食武家

来武士家宅品尝美食如何?

高侖希

访问完中村假肢公司后,我们和中村社长以及相关人士一起来到“咄咄庵”共进午餐。轻轻一瞥装饰着本地特有的石州瓦的黄色土墙,一种历史感油然而生。

咄咄庵由两栋建筑构成,前面一栋是有着200年历史的武士家宅。由于这一栋建筑已被指定为国家级历史遗迹所以不能使用烹任用火。据介绍,现在其被作为接待团体客人的餐厅来使用。

我们首先进入了位于后面的建成较晚的那栋楼。坐在吧台前的座位上可以环视整个厨房。这里有做饭的小锅和水井,处处洋溢着古典风韵。如果点天妇罗套餐的话,你可以一边欣赏厨师长炸天妇罗的样子一边品尝美食。

厨师长为我们上的套餐很朴素,有荞麦、四种天妇罗、鸡肉和萝卜叶、锦蛋饭和两种小菜。



荞麦面细长,颜色很淡,吃起来很劲道。我向店家咨询了一下了解到荞麦粉和小麦粉根据使用比例的不同,面的弹性和味道也会发生变化。小菜的味道虽然清淡,但和有甜味的米饭配在一起,味道却恰到好处。

我原本以为做出来的日本料理会是色彩鲜艳的,结果出乎意料每一道菜都很清淡且味道地道,吃多少你都不会觉得厌倦。

吃完饭后我们采访了厨师长长尾多一(50岁)先生。

Q: 您是从什么时候开始做菜的呢?

A: 我是从十七八岁时开始学做菜,今年我已经50岁了,做菜已经有32年。中途也曾一度离开过这个工作。小时候因为我

Japanese

武家屋敷で食事をしてみませんか?

中村プレイスを訪問した後、中村社長と関係者の方々との食事をしに「咄咄庵(とつとつあん)」に行きました。黄色い土壁にこの地域特有の石州瓦を葺いた建物はちらっと見るだけでも歴史を感じさせてくれました。

建物は前後の2棟で構成され、前の棟はなんと200年前に建てられた武家屋敷だそうです。この棟は国が指定した史跡なので調理のための火気は使えませんが、団体客をもてなすなどの用途で使われるという説明でした。

私達はまずあと後から建てられた後ろの棟に入りました。座ったカウンター席からは台所が見渡せました。ご飯を炊く釜や井戸などがあり、古風な感じが漂っていました。天ぷらコースを頼めば、料理長が目の前で天ぷらを揚げる姿を見ながら食事ができるそうです。

出てきた料理は結構素朴なものでした。そば、四種類の天ぷら、鶏肉と大根の葉、錦糸卵に乗っているご飯、簡単なおかず2種類。

蕎麦の麺は細く、色は薄かったです。噛むときは歯ごたえがありました。聞いてみたら、蕎麦粉と小麦粉の割合によって弾力と味が変わるそうです。おかずの味は薄かったのですが、甘みのあるご飯とバランスよく合いました。



高侖希(コ・ユニ)

色鮮やかな日本料理が出るだろうと思っていた予想は外れましたが、料理一つ一つがさっぱりしていて基本がしっかりした味がしました。いくら食べても飽きない味でした。

食後には料理長の長尾多一さん(ながお・たいち、50歳)と話す機会がありました。

Q: 料理を始めたのはいつからですか。

A: 17~18歳からです。今50歳なので32年前です。途中抜けたこともあります。両親が共働きで家にいなかったため、その時から作りましたね。咄咄庵で働いたのは2012年3月からですから、まだ一年は経っていません。

Q: 世界遺産の中で料理するのは他の所で料理するのと何か違いがありますか。

A: 特にありません。なぜかという、お客さんは基本的に一緒だという考えで臨んでいるからです。まずは自分でも食べたくなる料理を作り、その上でお客さん

梦之港



食事を して 武士 の家 で

都是一致的。首先需要做出自己能爱吃的东西,在此基础上再站在客人们的立场上考虑。

Q: 您最想向外国游客推荐的菜单是哪一个呢?

A: 我们为时间紧张的游客特别准备了最便于携带的便当。便当里加入的食材因价格的不同而不同,也可以根据顾客的需求在便当里追加天妇罗和生鱼片等。(过去用石见银山出产的银来造椭圆形的银币,厨师长给我们看了模仿银币形状做的便当。)外国游客也会去世界遗产中心参观,也会去了解那里的大事记记事簿,所以当它们看到便当时,马上就明白了那个是银币的形状。

父母是双职工工作时都不在家,所以从那时起我便开始自己做菜。我从2012年3月开始在咄咄庵工作,现在还不到一年的时间。

Q: 在世界遗产的房子里做菜和在别的地方做菜感觉有什么不一样吗?

A: 没有什么特别的不同。为什么这么说呢,因为客人基本上



采访结束后,我们来到前面那栋武士家宅进行参观。脱掉鞋进入日式的榻榻米房间,里面放着被炉。房间的举架很高,从外面看起来有两层楼那么高。3月的时候,因为这里会摆上女儿节偶人坛,所以这里成一个为能充分感受日本风格的空间。

餐厅的名字“咄咄”在日语中是用来表示感叹样子的词汇。但是我觉得与其说这个店很了不起引人注目的话,不如说这是个可以一点点使你心灵温暖的地方。随着季节的变化,菜单的内容也会选择应时的食材。厨师长表示会将散步时随手摘来的野菜加入春季的菜单,我打算春天时再次造访咄咄庵。

Japanese

の立場から考えようとしています。

Q. 外国人のお客さんに一番お勧めしたいメニューは何ですか。

A. 時間のない観光客にもってこの弁当があります。弁当に入れる品は値段によって変わり、天ぷらや刺身などを追加することもできます。

(昔石見銀山では産出された銀で楕円型の銀貨を作っていました。この銀貨を模した弁当を見せてもらいました。)

外国からのお客さんも世界遺産センターを見学したり、パンフレットを見たりして来られるので、弁当を見た時に銀貨の形であることがすぐに分かるそうです。

話が終わった後、前の棟の武士屋敷を見に行きました。靴を脱いで入る日本間の豊部屋にはこたつが置かれ、外から見ると2階建てにも見えるほど天井は高かったです。3月になると、ひな壇で飾られるというので、日本らしさを感じるのにちょうどいい空間に思えました。

店の名前である「とつとつ」は感嘆した様子を表現する言葉だそうです。しか

し、私には「わ、すごい」と目を見張ったというよりは、この場所で徐々に心が満たされ温まった気がしたのです。季節が変わると、その時に合う旬の食材や料理長が散歩がてら摘んだ野草でメニューの内容が変わるので、春にもう一度訪れたいと思いました。



历史的记忆 —石见银山的煤油灯

易 红

现在,提到关于照明的印象答案应该是电灯。如果提起从前没有电灯的年代大家使用什么呢?我想一定有人回答不出来。

这次,因为杂志选材的原因,我们去了至今仍营业的近代石见银山开采时期所使用的照明用具煤油灯的制作店。石见银山位于距松江市开车两个小时左右车程的大田市大森町一带。以大森町为中心的石见银山是距今800年前的日本标志性银山遗迹,1969年被日本指定为历史遗迹。并且于2007年成功申报世界遗产(文化遗产)。曾经,在银山所使用的照明工具的其中一种是煤油灯。

大森町是个宁静又有浓浓历史氛围的地方,日本的煤油灯是什么样子呢?在什么样的地方制作呢?带着这些疑问,我们到达了竹下先生的家。竹下先生被称为日本制作煤油灯的第一人。听说竹下家是从明治20年(1887年)银山的再开发时开始制作煤油灯。那个年代因为银山的开发煤油灯也被广泛的使用,有着很重要的地位。但是随着时间的推移使用煤油灯的时代结束了。

竹下家是从明治时期开始到现在一直制作煤油灯的工匠。煤油灯是油用灯具的一种,竹下先生店里的煤油灯是用镀锡铁皮制作的。

现在感觉竹下先生对于制作煤油灯的工作更像是兴趣,竹下佳嗣先生(74岁),中学的时候从学校返回家中学习制作煤油灯。制作煤油灯的过程中,在19年前得了重病。在那之后,制作煤油灯就变得很困难,要花费很长时间。据说有一个少年预约煤油灯的时候是小学三年级收到煤油灯的时候已



经是中学一年级了。我想尽管等了4年但是竹下也不会忘记煤油灯的事情。

从竹下先生的家出来感觉有点失落。这种传统东西渐渐的离我们远去,我想几十年以后关于煤油灯是什么东西大家可能都不知道了,感觉守护传统文化是我们每个人的责任。

如果你去石见银山的话,请一定去大森町的竹下鋳力店看看。去看看煤油灯的实物吧!支持传统物品,让我们一起来守护传统文化吧!

竹下鋳力店

島根県大田市大森町 171
電話 0854-89-0544

竹下鋳力店

島根県大田市大森町ハ171
電話:0854-89-0544



易 红

す。カンテラは油用灯火具の一種で、竹下さんのお店ではブリキで作られています。

现在,竹下さんはカンテラの作るのは仕事というより趣味という感じがします。竹下佳嗣(たけした よしつぐ)さん(74歳)は、中学時代に、学校から帰宅してカンテラ作りの勉強を始めたそうです。カンテラを作る生活をしていた今から19年前に体調を崩しました。その後は、カンテラを制作するのが難しくなり、カンテラを作るのに時間がかかったそうです。ある少年がカンテラを注文した時は小学3年生でカンテラが出来上がったのは中学1年生になっていたと聞きました。4年間も待てるということは竹下さんのカンテラのことを忘れられないのだと思います。

竹下さんの家から出ると、少しさびしい感じがしました。伝統的な物が私たちがからだんだん離れて、何十年後、カンテラと聞いてどんな物か皆が分かるかなと思ひながら、伝統文化を守るのは皆の責任だと感じました。

もし、石見银山に行ったら、ぜひ大森町の竹下鋳力店に行ってみてください。本物のカンテラを見てください。伝統物を応援して、一緒に伝統文化を守りましょう。

Japanese

歴史の記憶 —石見银山のカンテラ

現在、明かりのイメージはやはり電燈だと言われていると思います。昔、電燈がなかった時代に何が使われていたのかと聞かれるとなかなか答えられない人も少なくないと思います。

今回、情報誌の取材をするために、近代の石見银山で照明用具として使われていたカンテラを今でも作っているお店に行くことになりました。石見银山は松江市から車で2時間ぐらいで着く大田市大森町の辺りにあります。大森町を中心する石見银山は、800年以上前の日本を代表する银山遺跡と言われ、1969年に日本によつて史跡に指定されました。それから2007年に世界遺産(文化遺産)へ登録されました。昔、银山で使われた照明用具の一つはカンテラでした。

大森町は、静かで歴史が深い町と感じていたので、日本のカンテラはどんな様子かどんなところで作られるかと思ひながら、竹下さんの家に着きました。竹下さんは現在日本でカンテラを作る第一人者と呼ばれています。竹下さんの家は明治20年(1887年)に银山の再開発が始まった時からカンテラを作っていたと聞きました。その時代に银山を開発するために、カンテラがよく使われ、重要な役割を果たしていたと分かりました。しかし、時代がだんだん変りカンテラを使う時代も終わりました。

竹下さんの家は明治時代からずっとカンテラ作りの職人として存在していま

A magazine about

Shimane Prefecture, Japan

<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/>

梦之港

编辑: 易 红

Publisher: 島根県環境生活部文化国際課

关于本杂志, 您有任何意见或疑问请与我们联系。

1 Tomomachi, Matsue-shi, Shimane-ken 690-8501, JAPAN

発行: 島根県環境生活部文化国際課



Ko Yunhee



Fu Bo



Damien Craig



Yi Hong



Tatyana Kravivina